

## 第2学年3組 道徳学習指導案

時間・場所 第3校時・2年3組教室  
児童数 男子17名 女子17名 計34名  
指導者 村松 麻美

### 1 主題名 いざという時のために 内容項目1－(1) 基本的な生活習慣

資料名 「ぼくにできること」

(出典：彩の国の道徳 道徳教育指導資料集～東日本大震災に関連した出来事をもとに～  
「心の絆」より)

### 2 主題設定の理由

#### (1) ねらいとする価値について

低学年の内容項目1－(1)は、「健康や安全に気を付け、物や金銭を大切にし、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活をする」ことをねらいとしている。基本的な生活習慣をしっかりと身に付けることは、人間形成において極めて大切である。

この時期の子どもたちは、学級や学校生活の中で自分のすべきことが分かるようになり、自らの手でやろうとする意欲を強く示すようになる。しかし、まだ大人への依存が高いため、困った時にすぐに教師に頼り、自分で全く考えず何とかしてもらおうということが多い。また、様々なきまりや課題が課せられる学校生活にしっかりと適応できず、基本的な生活習慣を十分に身に付けていない子どもも見られる。このようなことから、子どもの活動意欲をさらに大きく高めつつ、自立の芽を伸ばしていけるような指導の工夫を行うことが大切である。

本授業では、突然地震が起きた時のことを取り上げ、危険な場面に自分しかいないという状況に置かれた時に、よく考えて行動することの大切さや、事前に準備しておくことと危険を最小限に食い止められることなどに気付くことができるようにする。主人公は、父や兄が自分一人であることを考えて行っていることを聞いてどのように考えたのかということについて、深く考えさせていきたい。さらに、困った時に自分で対処できた経験を振り返らせ、賞賛することで、健康や安全な生活について見直し、よく考えて行動しようとする態度を育てていきたい。

#### (2) 児童の実態 (略)

#### (3) 資料について

本資料は、東日本大震災に関わりのある出来事を題材として取り上げ、主人公の心情や行為を共感的に受け止めながら道徳的な判断やそれに伴う心情を養うことができるように作成されている。主人公「ぼく」は母親と昼食を食べている時に大きな地震に遭う。その後、一時的に断水になり、今まで当たり前に出ていた水が出ないと、とても生活に困ってしまうことを体感する。また、出かけていた父や兄から、地震時の行動についての話を聞き、地震が起きた時の家族での決めごとなど、家族みんなを考えることにする。突然の災害に対して事前に準備しておくことや自分で考えて行動することの大切さに気づいていくという話である。

指導に当たっては、よく考えて行動することの大切さや、事前に準備しておくことと準備を最小限に食い止められることなどに気付くことができるようにする。また、地震のときだけではなく、起こりうる危険な場面を考え、健康で安全な生活を心がけていくようにする。

また、低学年という発達の段階を踏まえると、震災の写真や映像を見せて恐怖心をあおるようなことがないように配慮する必要がある。

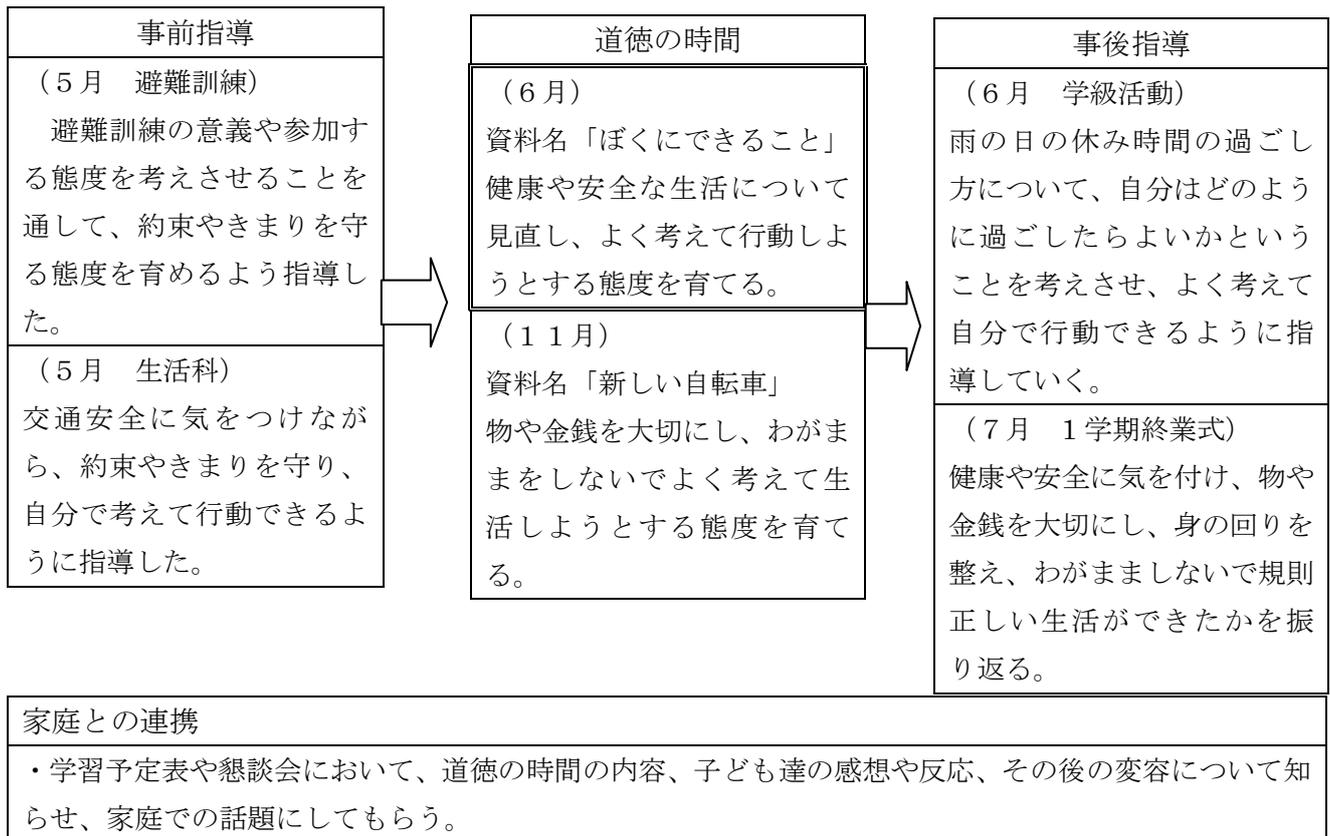
### 3 本時のねらい

健康や安全な生活について見直し、よく考えて行動しようとする態度を育てる。

### 4 「教育に関する3つの達成目標」とのかかわり

本題材は、教育に関する3つの達成目標のひとつである「規律ある態度」の「生活のきまりを守る」こととつながる。ここでは、突然の災害に対して、事前に準備しておくことや自分で考えて行動することが必要だということを考えさせる。児童が集団の中できまりを守りながら、健康や安全な生活について見直し、よく考えて行動しようとする態度を育てられるようにしていきたい。

### 5 他の教育活動等との関連



## 5 学習指導過程

### 展開

段階	学習活動と主な発問	予想される児童の反応	・指導上の留意点☆評価の観点
導入	1 地震や火事などの災害が突然、学校や家庭で起きたときのことを考える。		・災害の恐ろしさやその時に何をしたのかを想起させ、本時のねらいへの方向づけをする。
展開	<p>○資料について知る。</p> <p>○資料の範読を聞く。</p> <p>○話題の整理と確認をする。</p> <p>2 主人公の心の変化を中心に話し合う。</p> <p>(1) 地震が起きて水が出なくなってしまうとき、ぼくは、どんなことが心配になりましたか。</p> <p>(2) みんなが出かけているときに地震が起きたら、どんなことが困りますか。</p> <p>(3) お父さんやお兄ちゃんの話聞いて、ぼくはどんなことを考えたので</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>登場人物 主人公 ぼく</p> <p>相手方 お母さん、お父さん、お兄ちゃん</p> <p>条件・状況 主人公は、お母さんと昼ご飯を食べている時に地震に遭い、一時的に断水を経験する。その後、家族と地震が起きた時のことについて考えることにした。</p> </div> <p>・水が飲めない。</p> <p>・手洗いやうがいができない。</p> <p>・お風呂に入れない。</p> <p>・トイレの水を流すことができない。</p> <p>・自分しかいないこと。</p> <p>・一人なので、どう行動したらよいかわからない。</p> <p>・一人でどこへ避難してよいかかわからない。</p> <p>・人に頼らず、自分でなんとかしなくてはいけない。</p> <p>・お父さんやお兄ちゃんのように自分で考えて行動できるように</p>	<p>・理解が難しい言葉は説明を入れながら範読する。</p> <p>・児童が資料を十分理解できるように、間の取り方やキーワードに気をつけて読む。</p> <p>・子ども達から出た言葉を生かしながら話し合いの柱を立てる。</p> <p>・当たり前のように蛇口をひねれば出る水が出なくなってしまうと生活に困ってしまう気持ちに共感させる。</p> <p>・突然の災害で頼る人がいないときの心細さとともに、どのような困ることがあるのかを考えさせる。</p> <p>・突然の災害に対して、事前に準備しておくことや自分で考えて行動することが必要なことを押さえる。</p>

	しょうか。	なりたい。 ・地震の時にどのように行動したらよいかを、ちゃんと知っておくようにしたい。	
	3 今までの自分を振り返る。	・校庭で遊んでいる時に、高学年の人が校庭の真ん中に集まるのを見て自分も同じことをできた。 ・狭い道では、右側に寄って安全に歩くことができた。	・今日の学習で思ったこと、気付いたことをワークシートに書かせるようにする。 ☆自分の生活を振り返り、本時の価値に照らし合わせて考えることができたか。
終末	4 教師の話聞く。		・説話から、突然の災害時に事前の準備やきまりが役に立った話や自分で考えて行動できた話をする。

## 6 板書計画

かぞくみんなで考える。

- ・あわてないでよく考えてうごく。
- ・きんきゅう時のじゅんびをする。
- ・じしんの時に、どうすればよいのかをいろいろしらべて知っておく。

ぼくにできること

おかあさんとおひるごはんをたべている時  
どつぜん、じしんがおきる  
水どうの水がでなくなってしまう

水が出なかった時  
どうしよう。こまった。水がつかえない。心ばい  
手あらい、うがいができない。  
トイレの水がながせない。

みんながでかけている時に自分だけだったら？  
どうしていいのかわからない。

おとうさん、おにいちゃんの話聞いて  
じぶんで何とかしなくてはいけない。  
おとうさん、おにいちゃんみたいに  
じぶんで考えて行どうできるようにしたい。  
じしんの時にどうしたらいいか、知っておきたい。

## 7 評価の観点

### (1) 児童側からの評価

・主人公の心情や行為を共感的に受け止めながら、起こりうる危険な場面を考え、自分はどのように行動したらよいかを考えることができたか。

### (2) 教師側からの評価

- ・ねらいとする価値に近づくための効果的な発問をすることができたか。
- ・児童の思いを大切に、児童の考えを深めさせることができたか。